

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-イ	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	施策	科学技術・スポーツ・文化芸術人材の育成
			施策の小項目名	理数教育の充実
主な取組	沖縄科学技術向上事業			
対応する主な課題	本県は科学技術を中心とした知的・産業クラスターの形成を目指しており、県内人材の科学技術水準の向上が求められているが、県内をはじめ全国的にも理科離れが顕著であることから、幼い頃からの体系的な理数教育を展開し、子どもたちの科学に対する興味関心を高めるほか、優れた若手研究者等への支援をはじめとする専門性を有する人材の育成を図る必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
理系大学等への進学率の向上や子ども達に科学の楽しさや奥深さを体験させ、科学に対する興味や関心を高めるため、高校生を対象として、次の～の事業を推進する。 沖縄科学グランプリ開催(科学の甲子園県予選) 先端研究機関等生徒派遣 合同宿泊学習会 沖縄科学技術向上事業実行委員会		30人 先端研究施設 への生徒派遣 人数					→
実施主体	県						
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】		沖縄科学グランプリの開催及び県代表校選出、先端研究施設への生徒派遣			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄科学技術向上事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度： 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、沖縄科学グランプリを縮小開催し、先端研究機関等への生徒派遣および合同宿泊学習会は中止となった。	
県単等	直接実施	6,176	6,217	6,183	5,299	700	6,280	県単等	R3年度： 沖縄科学グランプリ、先端研究機関等への生徒派遣、合同宿泊学習会について、感染症対策のため縮小して実施予定。	

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度：	
									R3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	先端研究施設への生徒派遣人数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	52人	43人	48人	35人	0人	30人	0.0%	700	大幅遅れ	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、先端研究機関等への生徒派遣および合同宿泊学習会を実施することができなかった。沖縄科学グランプリについては、感染症対策をとった上で、日程の短縮および参加人数の縮小により実施することができた。</p>
活動指標名	「沖縄科学グランプリ」参加校数				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	18校	20校	21校	18校	15校	24校	62.5%			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>先端研究機関等への生徒派遣については、12月に派遣する予定で準備に取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できなかった。また、合同宿泊学習会についても同様に実施できなかった。沖縄科学グランプリについては、感染症対策をとった上で15校90人の生徒が参加し、科学への興味関心を高めることができた。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 先端研究施設研修について、より理系人材育成につながるような研修内容となるよう工夫する。 「科学の甲子園全国大会」における県代表チームの成績の向上を図るため、2月実施の合同宿泊学習会の内容について工夫する。 						<ul style="list-style-type: none"> 先端研究施設研修については内容を工夫して準備していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施できなかった。 「科学の甲子園全国大会」へ県代表として開邦高校が参加することになったが、成績向上の取組としては校内での対応のみとなった。 				



様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因

・理系人材の育成には必要な取組であるため、感染症対策に注意した上での実施内容の検討が必要である。

外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、宿泊を伴う取組は困難である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各取組において、新型コロナウイルス等感染症対策に注意した上での実施内容の検討が必要である。

4 取組の改善案 (Action)

・先端研究施設研修について、理系人材の育成には欠かせない取組であるため、新型コロナウイルス等感染症対策に注意した上での実施内容を工夫して行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-イ	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	施策	科学技術・スポーツ・文化芸術人材の育成
			施策の小項目名	理数教育の充実
主な取組	スーパーサイエンスハイスクールの指定			
対応する主な課題	本県は科学技術を中心とした知的・産業クラスターの形成を目指しており、県内人材の科学技術水準の向上が求められているが、県内をはじめ全国的にも理科離れが顕著であることから、幼い頃からの体系的な理数教育を展開し、子どもたちの科学に対する興味関心を高めるほか、優れた若手研究者等への支援をはじめとする専門性を有する人材の育成を図る必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容			年度別計画				
将来国際的に活躍しうる科学技術人材等の育成を図るために、文部科学省が理系教育に重点を置いた研究開発を行う「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を平成25年度から受けている県立球陽高校および令和元年から受けている県立向陽高校の取組に関する指導・助言を行う。			H29	H30	R元	R2	R3
			実施主体			指定校における研究課題・教育課程開発の実施	
担当部課【連絡先】			指定校応募に向けた調整及				
教育庁県立学校教育課			【098-866-2715】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度： 県高等学校科学教育連絡会等で球陽高校および向陽高校の成果の普及を行った。	
									R3年度： 県高等学校科学教育連絡会等で球陽高校および向陽高校の成果の普及を行う。	

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度：	
									R3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	指定校における研究課題・教育課程開発の実施				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
					研究実施		100.0%	0	順調	<p>文部科学省から5年間のスーパーサイエンスハイスクールとして指定を受けている県立球陽高校と県立向陽高校において、「理科課題研究」や「生徒発表会」を実施し、科学技術系人材の育成に努めた。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>球陽高校、向陽高校とも、大学教授等の外部有識者からなるSSH運営指導委員会において、生徒の主体的な探究活動への取組に対して高く評価を受けたことから取組進捗は順調と言える。また、各取組の成果を琉球大学主催の「沖縄科学シンポジウム」、沖電主催の「青少年科学作品展」、OIST主催の「SCORE!」などの各種大会に出場・出典し、県内の理科系イベントを充実させた。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・県立向陽高校は2年目となり、実質的に生徒の探究活動が本格化する。県立球陽高校の取組実績を情報提供するとともに、県外のスーパーサイエンスハイスクール指定校の事例も参考に、指導助言を行う。 ・県立球陽高等学校は、2期3年目となり、文部科学省から中間評価が実施される。引き続き管理機関として適切な指導助言を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> ・球陽高校と向陽高校において、それぞれ年に3回「運営指導委員会」を実施し、琉球大学やOISTの先生方も参加していただき、スーパーサイエンスハイスクールとしての取組について指導助言を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因

・ 琉球大学やO I S T等の外部機関とも連携をとり、引き続き支援を行う必要がある。

外部環境の変化

・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、生徒発表会への他校からの参加が制限された。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 琉球大学やO I S T等の外部機関とも連携により、研究をさらに深化させる必要がある。
- ・ 先進的な理数教育の取組であるスーパーサイエンスハイスクール指定校の研究成果を、他校へさらに普及させる必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ スーパーサイエンスハイスクール指定校の研究成果を、他校へ普及させる取組について支援を行う。
- ・ 県立向陽高等学校は、1期3年目となり、文部科学省から中間評価が実施される。引き続き管理機関として適切な指導助言を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-イ	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	施策	科学技術・スポーツ・文化芸術人材の育成
			施策の小項目名	理数教育の充実
主な取組	海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			
対応する主な課題	本県は科学技術を中心とした知的・産業クラスターの形成を目指しており、県内人材の科学技術水準の向上が求められているが、県内をはじめ全国的にも理科離れが顕著であることから、幼い頃からの体系的な理数教育を展開し、子どもたちの科学に対する興味関心を高めるほか、優れた若手研究者等への支援をはじめとする専門性を有する人材の育成を図る必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、海外での研究機関等の訪問、現地高校・大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る。		25人 派遣数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					
		県内高校の生徒を外国の高等学校等へ派遣し、理科系の科目を中心に受講させる				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名	海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	12,566	12,795	10,827	6,032	-	14,599	一括交付金(ソフト)	R2年度： カナダへ11日間、高校生25人を派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大のため、事業を中止した。 R3年度： オーストラリア・ビクトリア州へ11日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等授業参加などを実施する。	
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度：	
									R3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	25人	25人	20人	0人	-	25人	0%	0	未着手	カナダ・ブリティッシュコロンビア州へR3年3月に11日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る研修を実施する予定であった。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・現地研修をより深い学びへと繋げるため、事前研修で探求テーマに取り組む「サイエンスイマージョン研修」を引き続き実施する。 ・実践的な語学力を高めるため、生徒選考時における英語面接試験内容および事前研修での語学研修方法を構築する。 ・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を徹底する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、事業を中止した。 				



様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none">・現地で研修をより深めるために、事前研修で取り組んだ探求テーマについて現地高校生と意見交換する場を設定した。また、事前研修における英語での授業は、リスニング力および語彙力の向上に必要である。	<ul style="list-style-type: none">・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣生徒の選考および事前研修において、生徒に探求テーマを構築させ、英語で意見交換できるコミュニケーション能力を育成する必要がある。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、研修先大学および委託先と連携を図り、オンラインを含む研修方法を準備する必要がある。



4 取組の改善案 (Action)

- ・現地研修をより深い学びへと繋げるため、事前研修で探求テーマに取り組む「サイエンスイマージョン研修」を実施。
- ・実践的な語学力を高めるため、生徒選考時における英語面接試験内容および事前研修での語学研修方法を構築。
- ・事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン (オンデマンド) 研修等を実施する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-イ	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	施策	科学技術・スポーツ・文化芸術人材の育成
			施策の小項目名	競技力向上対策
主な取組	学校体育団体活動費補助			
対応する主な課題	芸術文化やスポーツの分野における国内外での県出身者の活躍は、県民に夢や感動を与え、地元の誇りにつながっている。しかし、このような優れた人材を集中的に育成し、輩出していくための指導体制などの環境が不十分であることから、教育機関と関係団体等が連携した一貫した指導体制の構築等、将来性ある資質を最大限に引き出す環境づくりが必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
学校体育関係団体に補助金を交付し、円滑な活動の推進と当該団体の充実強化を図るとともに、競技力の向上に寄与し、生徒の健康の保持増進を図る。						
		全国総体・九州大会派遣				
実施主体	県、関係団体					
担当部課【連絡先】	教育庁保健体育課 【098-866-2726】					
		強化推進運動部指定・優秀選手強化				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	学校体育団体補助事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	補助	44,314	49,964	42,164	50,221	34,256	51,907	県単等	R2年度： 高体連等に補助金を交付した。令和2年度北関東総体が中止となった。強化指定校を27校指定した。 R3年度： 高体連等に補助金を交付。令和3年度北信越総体が開催される。強化指定校を指定する予定。
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		-	-	-	-	-	-		R2年度： - R3年度： -

様式1(主な取組)

活動指標名	全国総体・九州大会派遣				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	未実施	実施	0.0%	34,256	大幅遅れ	競技力の向上を図るため、強化推進校に25校を指定した。 高等学校総合体育大会等の開催及び全国高校総体等への生徒派遣のため、高体連等へ補助を行う予定出会ったが、コロナ禍のため全国総体・九州大会共に中止となった。
活動指標名	強化推進運動部指定・優秀選手強化				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	強化指定	強化指定	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 令和2年度は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大のため、全国総体・九州大会共に中止となった。強化指定競技については、計画のとおり27競技を指定することが出来た。
活動指標名	-				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	-	-				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上を図るには、強化推進に必要な長期的支援が必要であることから、引き続き沖縄県スポーツ推進計画に基づき支援を行う。 ・指導者の役割が大きいことから、引き続き九州大会や全国大会等で上位入賞等の実績のある教職員が安定的に指導できる環境整備を検討する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、部活動の活動制限や大会中止など、十分な選手強化が見込めない状況で、生徒、指導者、保護者、各競技団体が工夫して選手強化に取り組んだ。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍により、部活動の制限等、厳しい状況の中、各校の監督・コーチの熱心な指導、強化指定校による選手・チーム強化、各団体県連・協会のバックアップ等、工夫して取り組んだ。・今後も競技成績を維持するために、継続して優秀な指導者継続配置を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・全国的な新型コロナウイルス感染拡大のため、全国総体・九州大会共に中止となった。・平成22年度沖縄美ら島総体以降の優秀指導者異動や退職等の他、日々進歩する指導法の周知が課題である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・令和2年度は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大のため、全国総体・九州大会共に中止となり、十分な成果の検証ができなかった。そのため、優秀な指導者が安定して指導できる環境づくり及び県高体連や各連盟・協会等の強化事業を支援することで、小中学生を含む一貫指導体制のさらなる強化と、合同練習や合同合宿、県外遠征等の選手・チーム強化を継続して行う必要がある。
- ・全国総体は全国を8ブロックに分けたブロック開催となっており、8年後には全国総体を開催する。選手や指導者の育成・強化について、継続して取り組んでいく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・令和2年度同様、競技力向上を図るには、強化推進に必要な長期的支援が必要であることから、引き続き沖縄県スポーツ推進計画に基づき支援を行う。
- ・競技力向上には、指導者の工夫改善が常に求められ、その役割が大きいことから、引き続き九州大会や全国大会等で上位入賞等の実績のある教職員が安定的に指導できる環境整備を検討する。

様式1 (主な取組)

活動指標名	県外派遣数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1,069人	923人	1,078人	1,014人	103人	700人	14.7%	4,990	大幅遅れ	<p>文化活動の発表の場を確保するとともに各分野の技術向上を図るため、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟の強化費、大会運営費、派遣費に関する補助を行った。多くの県外大会が中止やネット開催となり、派遣人数は大幅に減少した。</p>
活動指標名	県高文連・県中文連に対する補助				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	実施	実施	実施	実施	実施	-	100.0%			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>県外大会への派遣に関する事業や離島生徒の大会派遣費の補助についても継続的な支援を行ったが、大会中止やネット開催等で計画値を達成できなかった。県中学校総合文化祭や県高等学校総合文化祭は感染症拡大防止のため大会の中止や規模縮小による開催で参加者数は減少した。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・県外大会へ派遣される生徒の保護者経済的な負担を軽減するために引き続き支援を行う。 ・県高校総合文化祭への参加者数を増やすために高文連と連携し、吹奏楽部門等の運搬費補助のあり方について検討する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・継続して支援を行っているが、新型コロナウイルス感染症のため大会の中止、ネット開催等となった。 ・高等学校文化連盟を通して支援を行うことができたが、新型コロナウイルス感染症のため中止となった大会もあった。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none">・ 離島生徒の参加については、県内大会そして県外大会と航空機や船等の利用が必須のため保護者の経済的負担が大きい。・ 中文連及び高文連に専門部がない様々な分野に人気が集まり、小グループで楽しみながら活動している。	<ul style="list-style-type: none">・ 新型コロナウイルス感染症状況によっては、大会の中止、規模縮小等の可能性がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 離島生徒の大会への参加等については、派遣生徒の保護者の経済的な負担が大きいことや吹奏楽部門等については楽器運搬費が保護者の経済的負担となることから、引き続き支援を行う必要がある。
- ・ 中文連においても高文連同様、共催大会を派遣補助対象大会として、支援拡大を図り、多くの生徒に発表の場を提供して活動の活発化につなげる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて、大会開催につなげる。



4 取組の改善案 (Action)

- ・ 中文連においても高文連同様、共催大会を派遣補助対象大会として拡大を図り、保護者経済的な負担を軽減するために引き続き支援を行う。
- ・ 県高校総合文化祭等への参加者数を増やすために高文連と連携し、吹奏楽部門等の運搬費補助について継続して支援を行う。
- ・ 中文連、高文連に対して、新型コロナウイルス感染症に係るイベント等実施ガイドライン等の周知、支援を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	養成数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1,409人	1,411人	1,482人	1,548人	1,579人	1,400人	100.0%	2,984	順調	国・県指定無形文化財(芸能、工芸)の伝承者を養成するために研修等の経費を一部を補助することにより支援した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										計画値以上の1,579人を養成することができたことから進捗は順調と判断。伝承者の養成には長い年月を要するため、単年度の実施がすぐに新たな保持者の認定に結び付くものではない。これまで伝承者養成・技術錬磨事業を継続して実施したことにより、国・県指定無形文化財(芸能、工芸)の保存につながっている。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・「組踊」「琉球舞踊」等の研修生が多い伝承者養成事業については、事業の範囲内でより効果的な研修が実施できるよう保存会事務局と連絡・調整をしながら、その内容や方法等について具体的・計画的に検討していく。 ・工芸技術については、工芸の種別ごとに抱える課題が異なるため、課題解消に向けての方法や内容等について保存会事務局と連絡・調整をしながら具体的・計画的に検証していく。 						<ul style="list-style-type: none"> ・「組踊」において、延べ110人の伝承者研修をコロナ渦で対応可能なDVD研修に変更して実施した。約400人の伝承者を抱える「琉球舞踊」において、より効果的な研修が実施できるよう、令和3年度実施に向け、研修制度の整理について具体的な検討を進めている。 ・工芸技術について、県は保持団体・保存会と状況を確認しながら助言・指導を行う。保持団体・保存会は県や国の助言・指導に基づき、事業計画を作成・実施する。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none">・「組踊」「琉球舞踊」等の伝承者養成事業においては、研修生の人数が過大であるため、全員で効果的な研修を実施するには、研修会場や稽古場、発表会の持ち方等に課題がある。・工芸技術の伝承者養成事業等は、限られた予算で、伝承者の養成が確実に行われている。	<ul style="list-style-type: none">・無形文化財(芸能)は、生活様式や言語状況の変化等により、常に消滅・変容の危険と隣り合わせである。・工芸技術は、現状を維持しているものの、離島地域・北部地域での高齢化、過疎化が伝承者養成事業の実施に影響を及ぼす可能性が高まっており、対策が必要である。・高齢者が多く参加する伝承者養成事業において、徹底した感染症対策が求められる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・「組踊」「琉球舞踊」等においては感染症対策を講じた効果的な研修の見直し・検討に向け、具体的な見直し案について、保存会と意見を交換・調整しながら支援していく。
- ・工芸技術は、伝承者の養成について保存会・保持団体と意見交換・調整しながら支援していく。

4 取組の改善案 (Action)

- ・「組踊」「琉球舞踊」等の研修生が多い伝承者養成事業については、感染症対策を徹底し、コロナ渦でもより効果的な研修が実施できるよう保存会事務局と連絡・調整をしながら、その内容や方法等について具体的・計画的に検討していく。
- ・工芸技術は、工芸の種別ごとに抱える課題が異なるため、課題解消に向けての方法や内容等について保存会事務局と連絡・調整をしながら具体的・計画的に検証していく。